

(様式第4号)

第1回上田市総合戦略推進協議会 会議概要

|             |   |
|-------------|---|
| 1 審議会名      | 第1回上田市総合戦略推進協議会   |
| 2 日時        | 平成28年8月2日(火) 午後2時から午後4時15分まで  |
| 3 会場        | 市役所東庁舎 2階会議室  |
| 4 出席者       | 岡田基幸会長、鳥居希委員、井上拓磨委員、岡崎美都里委員、沓掛瑞穂委員<br>高野松宣委員、中條浩一委員、中沢利樹男委員、原有紀委員<br>宮島博仁委員 |
| 5 市側出席者     | 西入直喜政策企画部長、翠川潔政策企画課長、北島大志政策企画担当係長<br>加々井道男政策企画担当係長、上原匡政策企画課主任そのほか事業担当課職員    |
| 6 公開・非公開    | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開   |
| 7 傍聴者       | 0人 記者 2人  |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成28年8月31日  |

協議事項等

- 1 開会(課長)
- 2 あいさつ(部長)
- 3 協議事項

<商工課担当事業>

(1) 子育て女性社会進出促進支援事業について

(委員) 予算が27年度290万円から28年度900万円と3倍になっている理由は何か。

(事務局) 利用者のニーズが高く、研修等の規模を拡大することによる増。規模を拡大する一方で、KPIは現状よりも低い目標となっていることが矛盾している。

(委員) (井上委員が運営する) コワーキンググループが事業を受託して実施。最終的には支援ではなく、自立していくことが目標であり、現在のKPIについては確かに修正が必要かと思う。

(会長) 事業の目標が自立にあるのであれば、受注額をKPIとすべきと考える。活躍する女性40人に対し適当な報酬を支払う場合、自立するための費用はいくらくらいになるのか。

(委員) 目標としては、1人あたり月5万円程度と考えている。40人で200万円、そこに運営費を加算する必要がある。

(2) ものづくり企業相談体制整備事業について

(委員) KPIが27年度と28年度以降で変化するのはなぜか。

(事務局) 27年度事業は、企業OBなどのコーディネーターによる企業訪問・相談対応であり、成果指標として企業訪問により対応した新事業へ向けての前向きな相談件数とした。28年度は首都圏等での展示会への共同出展支援も事業のもうひとつの柱と位置付けており、効率的な売り込みや、複数企業のコラボレーション効果による製造業の強さを見る「製造品出荷額等に対する製造業の付加価値額割合をKPIとすることが適切と考えた。

(委員) 理由は了解。しかし、製造業の付加価値額割合というのが市民目線では分かりづらいと思う。

(委員) コーディネーターの評価はKPI設定の視点には入っていないのか。コーディネーターの評価もKPIに入れてはどうか。

(事務局) 現状、KPIには入っていないが、コーディネーターがどの企業を周り、どのような相談を受けたかということは市で把握している。

(委員) 個別事業ではなく、全体に通じるものであるが、地方創生予算を活用して実施している事業について、今後地方創生予算が切れた場合には、どうするつもりと考えているのか。

(事務局) まず、現在市として要望している平成28年度の推進交付金については、採用されるとの内示があったところ。その上で、仮に今後、地方創生予算が無くなった場合には、限られた市財源の中で、より効果の高い重要な施策を選択し、集中していくことが必要になる。本協議会等を通じて、施策の重要性や有用性などを積極的にご議論いただくことが選択と集中を図る上では重要になってくると認識。

(委員) 全体を通じて、効果が得られたという評価が多いが、KPIを達成できなかったものについて、しっかり達成できなかった理由を検証し、(事業実施方法のみならずKPIの設定自体も含め)見直すことも大切だと考える。

(委員) 各事業への予算配分が適切かという検証も必要と考える。

(事務局) 今回の地方創生交付金については、市への予算上限額が定まっており、その枠の上限額の中で、庁内から各事業の必要額を積み上げてとりまとめたという経緯であり、配分有りきではなかった。

#### <農政課担当事業>

##### (3) 6次産業化推進事業について

(委員) 伊勢志摩サミットもあり、県産ワインの期待が高まっている中、この機会を捉えて積極的に進めてもらいたいと考える。新聞報道等でも、信州大学で開発した山葡萄を用いたワイン生産の取組や、千曲川ワインバレー構想の中でのバス周遊の取組などが取りざたされているが、上田市における取組の現状を説明いただきたい。

(事務局) 山葡萄については信州大学で新品種登録を目指している段階であるが、市では市内農場において、その葡萄の試験栽培を開始したところ。本格的な収穫等はまだ先であるが、ワイン用葡萄栽培を目指して、新規就農希望者も着実に増えてきている中で、当該事業等国の支援を積極的に活用していく考え。また、8市町村で実施する千曲川ワインバレー構想のバス周遊ツアーは1100万円を掛け、週末の運行を実施する計画。上田市内のスポットとしては、柳町のカスミファームや、上田駅に設置予定のワインインフォメーションを予定している。

(委員) 新規農業者の自立までの収入等を支援している東御市と比べ、新規就農希望者への支援が手薄なのではないか。もっとチャレンジする若者を支援する体制を充実させるべきではないか。このままでは、チャレンジする若者が希望を見いだせない(恨みさえもたれる)市になってしまうことを懸念。

(委員) 本来、起業等は金融機関等から借金をしてリスクを背負ってスタートするのが常。苗木の支援等スタート時に支援を受けられるだけでも十分ありがたいものと考えられるべきではないかと思う。

(委員) ワイン事業については東御市が先行していると認識。ワインバレー構想も良いが、上田市はまずワイン加工業で強みを出すなど、独自性を出していくことも重要ではないか。

(事務局) 委員のご指摘もごもっとも。連携と独自性の創造とバランスを取っていくことが重要と考えている。

(委員) 6次産業化はワインだけではない。日本酒などでも良いはずであり、その点はどうか。

(事務局) 27年度に上田市における6次産業化の可能性調査を実施して上田市の特性などを整理したところ。今後はその調査結果を踏まえながら幅広い視点で6次産業化に取り組んでまいるところ。

<観光課担当事業>

(4) 観光プロモーション(おもてなし武将隊)事業について

(委員) 人件費以外も含んでいるのか。またKPIを観光タクシーの利用者数と設定した理由はなぜか。また、観光系の事業のKPIとしては、旅行者等の域内消費額の視点を入れるべきと考える。

(事務局) 経費はおもてなし武将隊の人件費のほか、プロモーションのための移動費などを含んでいる。また、KPIを観光タクシーの利用者とした理由は、観光課で造成したツアーに、観光タクシーで上田市を周遊した際には上田城跡公園内をおもてなし武将隊がご案内するというプランを含んでいたため。観光タクシーを利用するインセンティブとしておもてなし武将隊が大きな役割を占めると考えている。

(会長) KPIに旅行者の域内消費額を入れるべきとのご意見については、いろいろと課題や議論もあると思われるところであり、本日は時間がないので省略させていただく。追加の意見等があれば、追って事務局にEメール等で提出いただきたい。

(委員) おもてなし武将隊は何人いるのか。

(委員) 5人。

(委員) インバウンドが盛り上がる中で、上田市には外国人があまり来ていないと言われている。観光関連のHP等で英語版等も作成されていないと認識しているが、市としてのインバウンド受入れ対応について考えを伺いたい。

(事務局) HPは、不具合があり、現在英語ページは無い状況。現在、英語版の公開に向けて準備を進めているところ。インバウンド対応とは少し異なるかもしれないが、海外の方に上田市に来たいと思ってもらえるよう、英語のパンフレットを作成し、長野県が参加する海外イベントで配布しているところ。また、今年度から上田市出身の在外外国人に協力いただきSNSを用いた情報発信なども計画している。

(委員) KPI実績欄が「未発表」となっている項目については、いずれは明らかになるとの理解で良いか。

(事務局) JR上田駅の利用者数についてはタイムリー(定期)に発表されるものではないが、1年に一年程度の頻度では明らかになるもの。現状、平成25年度の数値が示されている。

(5) 真田氏の歴史演劇鑑賞事業について

(委員) 公演回数が6回から8回と30%程度増加している中で、予算が倍となる理由は何か。KPIの鑑賞者数も適切に見直す必要があるのではないか。

(事務局) 初年度は1公演20万円で契約してもらえたが、事業者側が赤字となったことを受けて、次年度は1公演30万円と単価の改訂があったことで予算額が増えている。また、鑑賞者数は、対象の学校の学童数による。

(6) 上田城跡関連史跡アプリ作成事業について

(委員) KPIはアクセス数ではなく、ダウンロード数とするのが適当ではないか。

(事務局) ご指摘はごもっとも。なお、現在のダウンロード数は約2万件である。

#### <シティプロモーション推進室担当事業>

##### (7) 2019ラグビーW杯キャンプ地誘致事業について

(委員) KPIで活動回数を10回としていたところ、6回にとどまった理由はなぜか。また、活動減にもかかわらず、予算額が削減されなかったのはなぜか。

(事務局) KPI設定後に、誘致活動のレギュレーションが厳格に定められたことにより計画していた誘致活動が実施できなかったことによるもの。なお、予算はパンフレットや映像の企画制作費であり、回数が減っても削減されないもの。

(委員) 映像やパンフレットなどの成果物も、実際に見られればなお良かった。

(委員) ポスト真田丸として、非常に重要な位置づけにある事業と認識している。誘致活動も重要だが、映像等を活用して市民の関心を高める取組なども積極的に進めていくことが大切であると考えている。

(委員) 市民への啓発という意味では、今月の広報うえだの表紙がラグビー漫画を使用して印象的だった。

(事務局) 今人気のラグビー漫画で、菅平に合宿に来るという描写があり、その縁もあり、広報誌表紙への掲載を快諾いただけた。上田市の高校にラグビー部がないのが痛いところではあるが、ご指摘のとおり、漫画やオリンピックでの盛り上がりも活用しつつ、積極的に市民へのPRに取り組んでまいりたい。

#### <保育課担当事業>

##### (8) 民間保育所助成事業について

(委員) 先般、国が表明した、保育士等の待遇改善策とは別物なのか。

(事務局) 過去から上田市で取り組んでいる事業であり、昨今の国の表明とは別である。

(委員) 子育て支援等は重点施策であると、地方創生総合戦略等で位置付けられているにもかかわらず、交付金対象事業の数が少ないのではないか。

(事務局) 結婚支援、子育て支援等については、地方創生推進交付金とは別の枠で国の支援制度があり、そちらを活用するように国からも指導があるため事業数が限られているところ。市単独予算の事業としても従来から手厚く取り組んでいるということもある。また、件数は少ないが、事業費で見ると、大きな割合を占めている点をご理解いただきたい。

(委員) 別枠があることは了解。しかし、上田市は子育てを支援するNPOが少ないと感じており、このような地方創生交付金を使って、NPOを育成する取組があっても良いのではないかと思う。

(委員) KPIは受入人数とされているが、需要に対しての対応可能割合(%)とすべきではないか。

#### <健康推進課担当事業>

##### (9) 健康づくりチャレンジポイント制度事業について

(委員) 課題とされている、ポイント交換・還元が行われなかったというのはどういうことか。

(事務局) 付与されるポイントの交換可能期限を設けなかったことにより、ポイント保有者が交換

を急ぐ設計になっていないことが要因と考えられるが、一旦期限無しとしてスタートした制度に急に期限を設定することは混乱を生じさせるものであり、他の手段をもって解決を図ってまいりたい。

(委員) 交換期限の無いポイント制度は、金券取扱い等の法律に照らして問題はないのか。

(事務局) 取得したポイントには有効期限を設けていないが、ポイント交換した利用券等にはそれぞれ利用期限が設けられている。

#### <上田市立博物館担当事業>

(10) 博物館展示整備事業について

(委員) 経費の内訳は何か。

(事務局) 各費用項目とそれぞれの金額について説明。

(委員) KPI が観光客人数となっているが、適当なのか。

(事務局) 同事業の KPI は、タイプ1 交付金として複数の事業をまとめて1 事業とした場合の KPI であり、当該事業単独の KPI とはなっていない。

(委員) 国への申請の関係で、タイプ1 交付金事業は1つの KPI としていることは理解するが、国への申請とは別に、各事業ごとの KPI を定めるべきではないか。そもそも、タイプ1の「広域周遊観光ルート形成事業」の事業目的は何か。

(事務局) タイプ1の同事業の目的は、地域連携による人の流れを作り、観光客を呼び込むこと。

(委員) KPI が27年度と28年度以降で変化するのはなぜか。

#### <合併10周年記念事業推進室担当事業>

(11) 信州上田魅力発信事業について

(会長) 売上収益はどこに入るのか。

(事務局) 製造については、上田市からの委託事業だが、あくまで販売については出版社に権利があり、上田市も必要部数を購入した。市の主な用途は10周年記念式典での配布だが、上田市の魅力がまとまっているので移住希望者への説明に活用している。

#### <池波正太郎真田太平館担当事業>

(12) 特別展及び環境改善事業について

(委員) 昨今、入場者数が大きく伸びていると伺っている。

(事務局) 昨年比で7割増となっている。

#### <武石産業建設課担当事業>

(13) ビーナスラインを基軸とした広域環境事業について

(委員) 同事業は茅野市を代表団体とした DMO 設立に向けた取組と理解しているが、DMO は観光だけではなく、地域の資源と結び付けて6次産業の活性化などにつなげていく幅広い取組と考えている。DMO に向けての取組はこの団体の中で進めていくということなのか。小諸市なども積極的な動きをしている中で、上田市独自の取組も積極的に進めることが重要ではないか。

(事務局) あくまでビーナスライン・美ヶ原を活用した DMO についてはこの団体の中で取り組んでいくことが有効と考えている。

<公園緑地課担当事業>

(14) 花のおもてなし事業について

(委 員) 先日、この取組があったことを知った上で町を歩いてみて、六文銭の入ったプランターに植えられた花を見つけられた。いい意味で町に溶け込んでいるとも言えるが、お城への誘客という点で効果は弱いと考える。

(事務局) 当初は、駅からお城までの道全体に配置する計画だったが、そこまで至らなかったというのが実情。

(委 員) 花の管理は誰が行っているのか。

(事務局) 管理は、地域の商店街が行っている。

<政策企画課担当事業>

(15) 地方版総合戦略策定事業について

(委 員) 委託先はどこか。

(事務局) 入札を実施し、地域総合というコンサルタントに委託した。

(委 員) 本協議会もそうだが、僅かな委員報酬については不要と考える委員も多いのではないかと報酬に代えて、有効な事業に積立てるなどの仕組みが構築されれば良い

(会 長) 委員報酬については、さまざまな立場でさまざまな考えがあり、この場での議論は避けたい。

<まとめ>

(委 員) 事業の人件費などの費用について、他の事例と比較しないと高いか低いかわからないものも多く、事務局の苦労は良く承知しているが、補足資料などが多くあるとより精度の高い評価・検証ができると考える。

(委 員) さまざまな面から上田の魅力が発信されることを期待している。ハローワークに勤務していて特に、子育て中の母親が社会進出することの難しさを実感しており、そのような支援に力を入れていくことが重要と考える。

《審議会概要記載に係る留意事項》

- ① 審議の経過及び結果について、委員や事務局の発言をそのまま記載するのではなく、市民に分かりやすく要約して記載してください。
- ② 発言者の個人名は掲載しないでください。
- ③ 記載内容の趣旨が誤って伝わらないよう、表現等に留意してください。
- ④ 審議の内容のみではなく、事務局からの説明についてもできるだけ記載してください。必要に応じて、審議会で使用した資料を添付してください。
- ⑤ 文末は、「です・ます調」ではなく、「である調」で統一してください。

\* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政管理課へ提出してください。

但し、次回会議で会議概要の確認を要する場合は、この限りではありません。

\* 行政管理課への提出にあたっては、部局内で決裁を受けてください。

\* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。